



ファッションの ちょっと・ウンチク

ボタンの色々-2

衣類には、本体である生地部分の他に、ビーズ、ラメ、ファスナー、トリミングなど色々なアクセサリや部材が使われています。ボタンについては、ほとんどの衣類に使用されています。ボタンには多様な種類の素材が使われています。

●真ちゅうボタン

ブレザーの金ボタンや学生服のボタンとして良く使われているのが真ちゅうボタンです。プラスチックとも言う代表的な金属ボタンです。真ちゅうは細かな型押し加工に適しているの



で、エンブレムや校章などを立体的にプレスできます。真ちゅうボタンのほとんどが、表パーツと裏パーツを組み合わせて、縁で留め合わせます。

真ちゅうは、塩素系漂白剤や汗などによって錆びてしまうことがあります。また銅と亜鉛の合金ですから錆びると暗緑色の緑青（ろくしょう）という錆びを発生することがあります。

保管では、プレスロイド系の無臭防虫剤によって錆びることもありますから注意が必要です。

●カゼインボタン

カゼインボタンは、牛乳のタンパク質成分であるリンカゼインを原料として作られています。要するに牛乳から作ったボタンということ。タンパク質独特のしっとりとした肌触りで、ウール製品に良く合います。



水に長時間漬けておくと、脆く壊れやすくなりますので、漬け置き洗いは厳禁です。また、後染め製品では淡色の生地に移染することがあります。塩素系漂白剤によって損傷します。

(資料提供：株式会社アイリス)

絵画の中の洗濯風景

ナポリの暮らしの風景



アンデルス・スヴァールスタ(1909年)

これはノルウェーの画家アンデルス・スヴァールスタの作品「パロネット、サンタ・ルチア、ナポリ」と題された絵画です。建物に干された洗濯物が揺れる様子や、階段を行き交う大勢の人々が、活気に満ちたナポリの日常を捉えています。

「ナポリを見ずして死ぬことなかれ」は、詩人ゲーテが『イタリア紀行』で残した言葉として有名で、ナポリ湾一帯の風光明媚な景色をたたえたものです。またここは歌でも有名な「サンタ・ルチア」地区。ヨーロッパのほとんどの都市ではこのように屋外に洗濯物を干すことが禁じられていますが、イタリアのナポリでは現在も、路地裏や狭い通りで建物の間に洗濯物を干す習慣が許容されており、特徴的な景観となっています。

また、画家はノーベル賞作家シグリッド・ウンセットを妻としたことでも知られています。

くらし応援ニューズレター

HomeDry News

ホームドライニュース No.124



●絵画の中の洗濯風景：

ナポリの暮らしの風景

●ファッションのちょっと・ウンチク：ボタンの色々-2

●繊維と服飾の物語：

優雅なファッション素材-絹

●なるほど納得！衣生活の知恵：

顔料染めという特殊な彩色製品

まごころクリーニング
ホームドライ ホームドライ

繊維と服飾の物語



優雅なファッション素材 絹の基礎知識



蚕蛾



繭

絹は、蚕（かいこ）が繭（まゆ）を作るために吐き出す繊維です。繭から繰り出された糸を生糸（きいと）と言い、一粒の繭から約1500mくらいの細くて長い糸が取れます。

かつて高級品といったイメージのあった絹も、カジュアルなブラウスやジャケットの素材としても使われています。しかし、絹は、その風合いや光沢のように極めて繊細で傷つきやすい性質を持っています。

①細い繊維の集まりでスレに弱い

絹は、とても細い繊維の集合組織ですから、摩擦によって毛羽立ちやすいという性質をもっています。このことから、特に濃い色の衣服では、スレた部分が、細かく毛羽立ち、白く色あせたように見えてしまいます。雨や汗などに濡れて摩擦されると毛羽立ちや白化が促進されます。特に、シルクデニムのように、強度を感じさせるような製品イメージでも、絹本来の性質が変わりはなく、かえってスレに注意をしたい製品であるといえます。

シルクのネクタイは、常に上着の右ラベル（衿）と交差している部分②が最も着用中に摩擦されています。特にタテ糸による柄が擦れやすく、摩擦した繊維

がクリーニングによって脱落することがあります。



②UV効果があるが紫外線に弱い

絹は、とてもよく紫外線を吸収する性質を持っており、このことから肌あれを防ぐ効果があるともいえます。しかし、その逆に、繊維そのものは紫外線の影響を強く受けることになり、黄ばみや退色が、他の繊維に比べて激しいという結果になります。

③吸湿性が高い一方で汗ジミや虫食いも

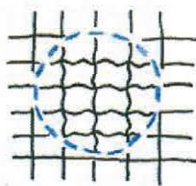
高級下着やパジャマなどにも使われるように、吸湿発散性に優れており、汗を良く吸い、湿気を発散させる性質があります。しかし、一方では汗などの体分泌物に含まれる乳酸や尿素、アミノ酸成分は蒸発しないので、これらの成分を蓄積してしまうこととなります。この結果、繊維が黄変したり、黄輪つきや虫食いの原因となったりします。

④水ジミが起きやすい

水に濡れると繊維が膨潤し、その部分だけ繊維の状態が変化するので、乾燥しても元に戻らないため、シミのように見えてしまいます。また、水に濡れてツヤが無くなってしまうのもこの原理によります。このような性質のため、絹製品の水洗いは、風合いや光沢の変化の原因になる可能性が高いといえます。

⑤塩素系漂白剤は絶対に使わないで下さい

絹は、次亜塩素酸ナトリウムによって溶けてしまいます。身近な次亜塩素酸ナトリウムを主成分とする家庭用品は塩素系漂白剤やカビ取り剤、トイレ洗浄剤などです。シミが付いても塩素系漂白剤は、絶対に使用しないで下さい。



顔料染めという特殊な 彩色製品が増えています

一般に繊維製品の色は、染料で染められていますが、最近は顔料染めという新技術が…。

染料とは、繊維の中にしみ込んでその染料の色にするものです。



しかし、顔料は鉱物などの微粒子なので、繊維に浸透することができません。ですから、顔料染めというのは、繊維や生地の上に色の微粒子を接着剤で張り付けたものということになります。

綿や麻などの製品に加工され、顔料の鮮明な色が表面に現れます。また、古着のようなテイストの表現にも使われています。

顔料は繊維の表面に接着されているわけですから、摩擦ではげ落ちやすいこととなります。また、接着剤がドライクリーニングで取れてしまいやすいという性質があります。